

本メルマガの現在会員登録数2,019人さま。前号では1,999人、「あと一人」と迫っていた2,000人の大台に乗りました。配信開始から満6年を前にしての到達です。これからもご愛 読ください。次号は8月20日発行の予定です

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 71

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 子どもの本の展示とイベント「世界のおいしい絵本展」

世界には「食べ物」をテーマにした絵本がたくさんあります。おにぎり、カレー、ケーキなど、いろいろな国の「おいしい」絵本を展示します。

期 間：7月23日（土）～8月7日（日）午前10時～午後5時 水曜休館

会 場：EXPO'70パビリオン1階ホワイエ（吹田市万博記念公園内）

入場料：無料 ただし、万博記念公園自然文化園の入園料が必要

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

共 催：一般社団法人 関西環境開発センター

後 援：大阪府立中央図書館

助 成：日本万国博覧会記念基金

会期中、下記イベントを実施します。

◇おはなし会「『世界のおいしい』おはなし」

日 時：7月23日（土）午後1時～、午後3時～

対 象：幼児、小学生（当日参加自由）

出 演：おはなしポップ

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。9月17日（土）の午後で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。申込締切は9月5日（月）必着。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

● 「第 33 回 日産 童話と絵本のグランプリ」 作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは 10 月 31 日（月）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 30 号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『ぼくたちのリアル』 戸森しるこ/作 佐藤真紀子/絵 講談社 2016年6月
対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：小学5年生になったアスカは隣に住むリアルと転校生のサジと同級生になった。リアルは学年一の人気者でアスカは劣等感を抱いているが、どうしてリアルが父と二人だけで暮らしているのか、サジがどうして急に転校してきたのかなどの謎が解き明かされる中で、お互いを理解していき、アスカも自分らしさについて気付いていく。

T：サッカーも勉強も得意なスーパー小学生のリアルの印象が鮮やかでしたが、読者が自分を重ねることができる視点人物のアスカも丁寧に描かれていて、説得力があるように感じました。

Y：第 56 回講談社児童文学新人賞受賞作品です。会話がいきいきとしていて、ユーモラス。リズムカルな文章をどんどん読み進めることができました。

T：子どもだけでなく、大人の描かれ方にも共感しました。最近の児童文学作品の教師像は子どもの敵のように描かれているものも多いように思いますが、この作品では、子どもの成長を見守っているかっこいい先生が描かれます。アスカの両親やリアルの父も個性的で子どもを愛していることが伝わってきました。

Y：ユーモラスなストーリーの中にも盛り込みすぎと思われるほど多くの大切なテーマが描かれています。いじめ、友情、家族の死、母の心の病、劣等感、同性愛などです。

T：一つ一つの問題解決のありようもいいなと思いました。例えば、アルト

という少年がサジの悪口を言っているのを聞いた時、リアルはサジとアスカにアルトが4人の弟妹の面倒を見ているという別の面を伝えます。登場人物を多面的に描こうとしている点がいいと思いました。

Y：リアルが担任の先生にあこがれる理由や、サジがリアルのお父さんに青い石をもらったエピソードなど、伏線もたくさん仕込まれていて、謎解きの要素も読ませる力になっています。

T：スイカのアイスクャンディーや写真、スプーンなど、道具立てにも気が配られていてうまいと思いました。

Y：リアルは大人びて何でも出来るとみんなに思わせているけれど、実は子どもだった、一方でアスカは子どもっぽいところもあるけれど、自分の考えをしっかり持つという意味で自分の中の「大人」を育てていた、サジも自分の中の真実に向き合う必要があったという意味で、タイトルが内容とぴったりした作品だと思いました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第11回「税務署長の冒険」

密造酒をめぐる庶民と税務署との攻防

〈いかにもおれは税務署長だ。きさまらはよくも国家の法律を犯してこんな大それたことをしたな。おれは早くからにらんでいたのだ。もうすっかり証拠があがっている。おれのことなどは潰すなり灼くなり勝手にしろ。もう準備はちゃんとできている。きさまたちは密造罪と職務執行妨害罪と殺人罪で一人残らず検挙されるからそう思え。〉

本メルマガ NO.66「かしわばやしの夜」（連載第6回）および NO.70「葡萄水」（同10回）には、いずれも農民が野葡萄から密造酒をつくって失敗する場面が描かれていました。

本作は、密造する側からではなく、税務署、つまり取り締まる側の視点から描かれた作品です。冒頭、税務署長はとある村で「濁密防止講演会」を行っています。根拠がないにも関わらず、署長は話に山をかけて聴衆の反応を見、その具合でその村の濁密（濁酒密造）の数を勘定するのが常套でした。署長が講演で〈密告者がいる〉と踏み込んだとき、会場はしいんとなります。ここぞとばかり賭けに出た署長でしたが結局失敗。尻尾をつかむことができませんでした。

物語は、推理小説風の展開で、村長や村会議員が絡む組織ぐるみの密造と、それを暴く署長とのやりとりで展開します。変装して単身村に乗り込み、現場を押さえた署長。しかし敵の手中におち、囚われの身となります。そのときに発した言葉が、冒頭の引用です。

作品の背景には、明治32年の濁酒密造禁止令があるとされています。当時の政府にとって、酒税は所得税をも凌ぐ最も大きな税収でした。日露戦争からたびたび続いた増税を醸造者に納得させるため、すべてのどぶろく造りを禁

止したのです。

密造する側と取り締まる側、いずれの立場の作品をも残した賢治。酒に対しては〈ばけそこなひの酵母の糞〉(詩ノート〔じつに古くさい南京袋で帆をはって])という厳しい見方もしている一方で、童話「カイロ団長」などでは酒におぼれる庶民をもユーモアあふれる筆致で描いています。

金子民雄は〈賢治はせっかく苦心して収穫した貴重な米を、濁酒にして飲んでしまう農民にきわめて批判的であった〉(『山と雲の旅』1979年)と述べています。農村に光を灯すため、晩年は肥料相談や土壌改良に取り組み、米の重要さを誰よりも感じていた賢治ですが、同時に国家に統制されて酒を自由に造って飲めなくなった農民たちの苦悩をも理解していたのではないのでしょうか。(ペ吉)

(本文の引用は、新潮文庫『ポラーノの広場』によりました。)

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 71

その10 学校でのおはなし会(3) 打ち合わせ会

学校でのおはなし会を行う前には打ち合わせが必要です。特に、同じクラスで複数の人が絵本を読んだりおはなしを語ったりするとき、プログラムを一つのまとまりのあるものとして楽しんでもらえるように全体のバランスを考える必要があります。

候補作品を持ち寄り、実演もしながら意見交換し、最終的にプログラムを決めることが理想的ですし、経験が浅い人には絶対に必要なことだと思います。しかし、働きながら参加している人や幼い子どもがいながら参加している人の中には打ち合わせ会に毎回参加することが難しい人もいるでしょう。そういう場合には、電話やメールなどを使いながら、打ち合わせをすることもあっていいと思います。ただし、少なくとも月に1回は顔を合わせるなど、会でルールを決めて、すべてをメールだけで済ませることのないような工夫が必要です。

グループのメンバーが少ないと、ついつい、各自の負担を少なくしようとして打ち合わせを行わないで実演することになってしまいがちですが、それによって、子どもたちがつまらない本やおはなしを聞かされるのは本末転倒だと思います。もちろん、活動が活発になった方がいいのですが、無理をしすぎず、自分たちのできる事、すべきことを確認しながら活動することに意義があると思います。

グループによっては、経験者が新しく入った人の読む絵本を決めてしまうこともあるようですが、それはおかしいと思います。読み手がこの本を通して本の楽しさ、物語の楽しさを伝えたいという気持ちがなければ、読む意味がないと思うからです。経験者からの推薦はあっても、強制すべきではありません。

同じ意味で、経験者の発言権が大きく、新入者が自分の意見を言いにくいグループもあると聞きます。本やおはなしについて語り合う時には、誰もが率直に意見を言い合い、そこでグループとしての絵本観、子ども観を作り上げていくことがグループの充実と発展につながるのです。

* 次号は「その 10 学校でのおはなし会（4）」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。（Y）

《4》 行って来ました！

堺市博物館で9月4日（日）まで開催されている「特別企画展－ファンタジーを染める－たじまゆきひこ展 型絵染と絵本原画」に行ってきました。

この展覧会では、主に型絵染の作品が約 100 点展示されています。『じごくのそうべえ』や『とんとんみーときじむな一』などの絵本原画以外にも、和紙に染められた作品、屏風、型紙や下絵、舞台背景などが展示されています。

作品はどれも透明感のある色が美しく、絵本で見た絵に比べて、実物の方がはるかに鮮やかに感じました。賑やかな「祇園祭」の作品は、祭りの様々な場面の人の表情や動きに味わいがあります。「神輿」の作品は、神輿を担いでいる中心部分はカラーで、周囲で激しく煽っている担ぎ手たちは黒色で刷られていて、荒波に揉まれているような躍動感を感じます。

3 枚組の大判の布の型染作品「不安」は、光るような青い色の背景に、木が影絵のように浮かび上がり、静けさや怖さを感じます。物陰に潜む人たちの表情が少しずつ違い、想像を膨らませます。

中庭には、長さ 10m 以上もある大きな布の作品が 5 本、足場を組んで設置されています。その中の作品「天馬」が風に翻ると、馬が空を駆けるようで壮観でした。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 展覧会 東欧の絵本大国「チェコ絵本をめぐる旅」

どこか懐かしさを感じさせる手作り感と、洗練されたデザインで人気を集めるチェコの絵本。チャペックなどチェコ絵本の伝統を築いた草創期の巨匠から最新鋭の作家まで、幅広く奥深い魅力を紹介します。

会 場：芦屋市立美術博物館（芦屋市伊勢町）

会 期：7月2日（土）～9月4日（日）午前10時～午後5時 休館日あり

観覧料：有料（中学生以下無料）

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ぼくたちのリアル』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO. 71プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。
締切は8月11日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

7月第3月曜の「海の日」に加えて、今年から8月11日は「山の日」で祝日になった。夏のレジャーの定番ともいえる海水浴と山登り。どこへ行っても、暑いし混んでいるし、だいたい日焼けしたら後が大変・・・、そんなことはお構いなしに楽しめるのが若い人たちの特権。私は、涼しい家でビールでも飲んで、猛暑の夏をやり過ごそう・・・。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
